

「英語教育改善プラン」に基づいた教員の英語力・指導力向上に向けた取組 「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～富山県～

現状と目標

求められる英語力（英検準1級程度以上）を有する英語担当教員の全英語担当教員に占める割合

【高校】達成値：H25 75.7%→H26 79.9%→H27 79.8%→H28 81.2%→H29 81.9%→ 目標値：H30 80%

【中学校】達成値：H25 47.5%→H26 48.0%→H27 48.7%→H28 47.9%→H29 46.9%→ 目標値：H30 55%

英語教員の指導力・英語力の向上

◆研修協力校4校での実践

- ・アクティブ・ラーニングをより効果的に行うための研究課題の設定（CAN-DOリストの活用、パフォーマンステスト、ICT活用、ワークシート作成・活用について各校で研究）
- ・運営指導委員（大学教授等）による指導助言
- ・公開授業、研究協議会の実施（H30参加教員70名）

◆英語教員研修会（2日間）の実施

- ・先進的な指導法に関する英語教育推進リーダーによる伝達講習（H30 中学校・高校の英語教諭140名参加）
- ・スピーキングテストに関する外部講師による講演

◆ALT指導力等向上研修会（2日間）の実施

- ・ALT配置の全ての中学校・高校から英語教員が参加（H30 日本人教諭77名 ALT84名）
- ・効果的なT・Tのあり方と実践
- ・県外講師による講演会
- ・異文化理解講座
- ・ALTとJTEの情報交換会



分科会

独自の工夫等

- ・研修協力校4校での合同運営指導委員会
- ・中学校と高校の英語担当教員による合同研修（指導法や評価等に関する情報を共有）
- ・「英語表現Ⅰ・Ⅱ」の授業公開
- ・再任用ALTの積極的な活用



伝達講習

成果の波及、周知

- ・43校すべての県立高校のCAN-DO リストをホームページで公開（富山県総合教育センターのNOCを利用）
- ・英語教員研修会における研修協力校の成果発表
- ・富山大学大学院生、中学校英語担当教員の研修協力校での研究協議会への参加
- ・研究報告書の作成・配布

課題と今後の方針

- 課題
- ・CAN-DOリストを活用した指導・評価の実践
 - ・中央研修受講者による研究内容の授業への生かし方
 - ・ICT機器を利用した授業研究
 - ・評価（パフォーマンステスト・スピーキングテスト）の研究
- 方針
- ・研修協力校の研究テーマ設定・継続的な研究
 - ・パフォーマンステストの実施方法やその評価に関する教員研修の充実（外部講師の招致と活用）

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～富山県立滑川高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・課題: 発信力を伸ばす (実態: 表現活動に消極的で、単調な表現にとどまっている生徒が多い。)
- ・手立て: CAN-DOリストを授業に活用し、目標の明確な活動を積み重ねることで、段階的に生徒の表現力を高める。

具体の取組の内容

- ・CAN-DOリストとリンクさせた年間指導計画の作成
- ・話し易い雰囲気作り(small talk, story making, T's English)
- ・授業の目標の共有
- ・Retelling活動の工夫(コミュニケーション英語 I・II)
 - ①教科書のretelling表現→類似テーマでの説明に応用
 - ②写真・イラストをヒントにし、自分の表現を引き出す

11/13公開授業の様子



成果①

CAN-DO意識調査の変化

できる度段階: 4 ~ 1 の平均
(高) (低)

話す・書くの項目	4月	10月
教科書の各パートを2~3文で説明	2.1	→ 2.3
キーワードを用いて教科書の各パートを要約	2.3	→ 2.4

対象:2年生(113名)

成果②

- ・speaking, writing活動を授業に計画的、継続的に取り入れることができた。
- ・多彩なpair work, sharing活動により、英語で考え、表現する意欲が高まった。

今後の課題・方向性

- ・到達目標と成果を、生徒と共有する。
- ・表現活動をスムーズに行うためのwriting vocabularyを増やす。
- ・発信の繰り返し、回数を重ねる活動を工夫する。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～富山県立石動高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

- ・多くの生徒が持つ英語に対する苦手意識を軽減し、積極的・継続的に学習に取り組む姿勢を育てるために、毎回の授業に無理なく関われる工夫と、地道な努力に動機付けを与える行事。

具体の取組の内容

- ・CAN-DOリスト変更…生徒の現状に合わせた、具体的で・分かりやすく・取り組みやすい目標へ見直し。
- ・ワークシート作成…予習・授業の関わり方が分かり、アクティブ・ラーニング活動の軸となるもの。また、その経過が記録として残り、後日、再確認できるもの。
- ・校内自作構文集 …授業での説明の際の例文としての利用はもちろん、学年を越えた全校規模の行事としてコンテストを実施することで具体的・継続的な努力目標として提示。
- ・互見（公開）授業…相互に授業を見学し、さらなる改善を目指す。

成果①

外部模試 平均得点率 全国との差

[2年生]	2017-7	2018-1	2018-11	avg
文法	7.0	6.0	9.0	7.3
読解	7.2	7.4	13.5	9.4
表現	10.8	9.1	10.9	10.3
総合	9.5	9.5	12.8	10.6

- ・入学時より圧倒的に構文に触れる機会が多く、全体で全国平均から差が開く模擬試験において、文法分野の差は他の読解力・表現力より開かない。

成果②

- ・予習の仕方が分からなかった者でも、ワークシートをこなすことで予習になり、授業の導入にもスムーズに移行でき、習慣化に繋がっている。
- ・予習ワークシートを用いて授業が進められて、活動の理解度が上昇している。
- ・コンテスト表彰をきっかけに自信を持ち、英語好きになり、進学先を考える者も出ている。

今後の課題・方向性

- ・より詳細な英語力を把握するため、GTECを継続利用し検証を続ける。
- ・教師間で連携をより強めるための毎週のミーティングをさらに緊密にして、生徒のレベルにより合うワークシートや活動を目指す。
- ・構文コンテストに意欲的でない生徒に継続的に授業で利用することで、大切さを理解させる。

平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」～富山県立呉羽高等学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

課題:効果的なパフォーマンステストの計画・実施方法について

手立て:CAN-DOリストや外部試験のパフォーマンステストを分析し、テストを計画・実施する。

具体の取組の内容

■全体

4月から週1時間の教科部会を設け、英語科全員で授業について議論してきた。また、パフォーマンステストを1・2学期の成績評価に加味した。

■コミュニケーション英語Ⅱ

□6月の公開授業・研修会にて

①リテリング活動を実施 ← 簡単な言葉での言い換えが必要

②Discussion活動を実施

□11月の公開授業・研修会にて

①TEAPのSpeakingを意識したインタビュー活動を実施

・会話を繋げるため、英語での応答の仕方を指導

・自身の意見を述べる設問の設定

・インタビューの設定を明確化(中学生が理解できるようにetc...)

■英語表現Ⅰ

□6月の公開授業(パーソナルプレゼンテーション)・研修会にて

①プレゼンテーションの良い例と悪い例を提示

②3・4人でのリハーサルを公開 ← 生徒に対して評価基準の明確化が必要

□11月の公開授業(グループプレゼンテーション)・研修会にて

①2つのグループ間でのリハーサルを公開

②生徒に評価基準を考えさせ、それを踏まえた評価基準を導入

成果①

■コミュニケーション英語Ⅱ

□定量的評価

・TEAPの受験者数が増加

〈経年データ〉

0名(2017)から6名(2018)

・英検の受験者数が増加

〈追跡データ〉

33名(2017)から54名(2018)

〈経年データ〉

約10名(2017)から54名(2018)

□定性的評価

・英語を積極的に話そうとする生徒が増加した。

成果②

■英語表現Ⅰ

□定量的評価

・成績評価(writing)が上昇

〈追跡データ〉

6.6/10.0(1学期)→7.6/10.0(2学期)

□定性的評価

・CAN-DOリストに基づいたテスト作りで目標が明確になった。

・評価基準を明確化し、プレゼンテーションの良い例と悪い例を視覚的に示したことで、生徒が評価のポイントを意識してテストに臨むことが出来ていた。

・授業内で生徒全員が話す機会を設けたことで、意欲が向上した。

今後の課題・方向性

□改善が見られなかった課題

・下位層も意欲的に取り組める活動とは何か。(C英)

・話すことに対して受け身の姿勢である。(英表Ⅰ)

□新たな課題

英語の正確な運用能力を上げていくためにはどのように取り組んでいけば良いのか。

□今後の方向性

12月に1・2年生全員が受験したGTECや1月に多くの生徒が受験予定の英検などの結果によって、これからもパフォーマンステストのあり方をより良いものに変化させていく。

